

環境まちづくり 会報

題字／福田博子氏

編集・発行／入間市環境まちづくり会議

入間市環境まちづくり会議

第6回 総会

平成十八年度事業計画決まる。

五月二十七日（土）入間市市民活動センターにて、第6回目の入間市環境まちづくり会議の総会が開催されました。前年度の事業報告と決算、本年度の事業計画と予算、そして、役員選出などが承認されました。本年度の事業予算は、市からの補助金が2万円減額され700,000円と



ンケートにご協力を頂きました。これは、今後部会を増設し会員の皆様によりわか

なり、前年度の繰越金等を含め774,000円の予算額と決定致しました。事業内容については前年度の活動をベースにエコライフDAYや環境ウォーキング等を実施し、また、環境情報の提供や環境学習の推進のため、市と共催で環境市民講座を行う事となりました。役員選出においては、新役員として若林克司氏と中村忠氏の2名が選ばれ、今後の会議の運営に携わって頂く事になりました。総会後には「みんなのごみ部会」「水きり大作戦」の活動報告や、「ごみひろい隊」の吸殻の展示、報告を行いました。また、総会前にア

り易く、そして、ごみだけでなく様々な環境問題に取り組む事を目指すためです。部会設置の折には会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。（清水洋行）

環境ウォーキングへのお誘い

第5回 11月19日(日)開催

入間市の自然環境をチェックしながら川沿いや丘陵地帯を歩く、第5回環境ウォーキングが十一月十九日(日)に開催されます。昨年と同様、コースに分かれて愛宕公園を目指します。芋煮、クイズ、音楽など盛りだくさんの楽しみも待っています。



1. 入間川、霞川下流コース（5km）武道館9時出発
2. 不老川まちなかコース（4km）藤沢公民館9時半出発
3. 加治丘陵コース（5.5km）文化創造アトリエ「アミーゴ」9時出発

表彰制度について

私たち環境まちづくり会議が環境諸団体と横断的關係にあることから、入間市の環境に功績のあった個人・団体・事業者に対して表彰させていただくものであります。自薦・他薦いただき、選考して毎年の総会で表彰させていただきます。平成19年度の総会で第一回の表彰をさせていただくべく、ただ今、規程等検討作成中であります。（谷口）

「ゴミと水分」

入間市環境まちづくり会議
みんなのごみ部会より

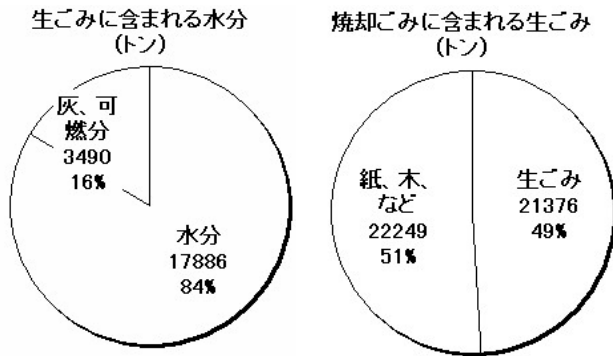
なぜ水を燃やしているの？

入間市では大量のごみを処理し、大量の可燃ごみを焼却しています。可燃ごみには大量の水分を含んだごみ（特に生ごみ）が含まれています。ごみを焼却処理するために水を燃やさなければならぬのが実情です。

生ごみのほとんどは水分

焼却ごみの49%が生ごみです。生ごみの83.7%が水分です。従って、焼却ごみの41%は生ごみに含まれる水分なのです。生ごみの水分を蒸発するために6億5800万円の税金が投入されています。ごみを処理するために

燃やしているのですが、もったいない話です。



何をすれば焼却する水分を減らせるの？

■生ごみの水切り：各家庭で生ごみの水切りをして、10%ごみの重量を減らせば年間2,138トンの生ごみが削減され、7800万円の

節約になるのです。

■生ごみの自家処理：現在12%の家庭で生ごみの自家処理をしています。推測するとその生ごみの量は1601トンで、5,842万円の削減効果となります。さらに多くの家庭で実施すれば多大な効果が得られます。

こ みんなのごみ部会が実施した入間市のごみに関するクイズと生ごみ処理方法のアンケート(対象者187名 集計結果報告書による)。

■大規模な自家処理：給食センターや事業所による自家処理の推進も重要です。

■生ごみの分別回収：まだ行

*) 特に説明のない数値データは平成16年、リサイクルプラザ資料と月間廃棄物2006年3月号頁17による。金額はごみ処理費を重量配分した。

皆さんのご意見をお寄せください。連絡先：みんなのごみ部会 本多 進 (2962-9754または info@kankyo-iruma.net)

われてはいいませんが、これから実施すべき課題です。仮に入間市の生ごみが全て自家処理されると年間2万1376トン、費用は7億8000万円削減されます。この費用は生ごみの分別回収処理(堆肥化)に回すことが出来ません。

行動活発な

「さや環ネット」

入間市環境まちづくり会議運営委員とさやま環境市民ネットワーク役員が交流会を開催

平成十八年四月九日、入間市民会館で、「入間市環境まちづくり会議」と「さやま環境市民ネットワーク」の2団体が初の交流会を行った。

両団体とも、環境問題の改善に向けて行動する環境市民として、入間市、狭山市それぞれの環境基本計画を推進する組織として位置づけ

られている。

さやま環境市民ネットワークは、平成十五年十二月に設立され、十六年六月には、「温暖化対策」「緑」「ごみ減量」「川」の四つの分科会が立ち上げられ、様々な活動を行っている。さや環ネットは、当会議より遅れて設立されたが、充実した事業構成となっている。

交流会は、「環境団体が自由な行動をするには、行政とは一歩離れた方が良い」など、行政と団体との関わりや、入間市と狭山市のごみ行政の違いなどが話されたが、全体として、交流会に参加した「さや環ネット」の皆さんの環境問題に対する豊富な知識が感じられた交流会となった。当会議も、もっと意識の向上を図り、活発な事業展開をしたい。(平田和雄)



学校版環境ISO

環境にやさしい学校づくり

市内の小・中学校では、平成十六年度から学校版環境ISO『エコスクール入間』に取り組んでいます。これは、各学校ごとに環境にやさしい学校づくりをめざして、環境意識の啓発、省エネ・省資源、校内の緑化活動等をおこなっていくものです。

それぞれの学校ごとに重点を決め、少しずつではありますが、学校ごとの特色も見られるようになってきました。

例えば、小学校では、こまめに電気を消したり、冬場はペットボトルに入れた水を日光で暖め、掃除に使用したりしています。中学校では、生徒会を中心に、節電・節水の他、落ち葉で堆肥づくりをする学校緑化等に力を入れています。(菅野)



⇒ペットボトルで温めた水を活用しての清掃



⇒落ち葉で堆肥を作る

平成九年九月二十三日に

環境に配慮した取り組み⑤ クリーンドライバーズクラブ

(株)野村運送 「先ずは自分達ができる事から」

第1回目のクリ

ーン活動を始めて以来、今年で9年が経ちました。当時、社内で無事故推進運動を展開しており、軌道に乗り始めた頃、環境問題にも取り組みもうと声があがり、排ガス規制など世界的にも大きなテーマであるが、「まずは、自分たちでできること」からはじめようとのことで、「アイドリングストップ」はもちろん。普段我々が毎日使用している道路に感謝を込めて、「拾うことで、投げ捨てをしないことの大切さを知る」と。当初は20人前後3班形成し、奇数月第4日曜日午前中2時間程度、事前にゴミリサーチをし、収集・分別をし、市のクリーンセンターに持ち込み処理をお願いする活動を始めました。回を重ねることに、従業員の家族(子供)参加もあり、今では全従業員で班を形成し、年6回行っています。その中の1回は、市民清掃デーに日にちを合わせて、各自治会さんへトラックを持ち込んでお手伝いも行っています。これからも大それたことは出来ませんが、職場である「道路」に感謝し、自分たちでできる環境問題に取り組み活動を続けて行きたいと思えます。(後藤哲也)

「拾うことで、投げ捨てをしないことの大切さを知る」と。当初は20



入間市環境まちづくり会議専用のホームページのご案内

このホームページは2005年3月に開設され、入間市の環境に関係する多くの情報が掲載されています。多くの皆様に活用していただき、よりよいHPになるようにきたんのないご意見をお願いいたします。ホームページのアドレスは下記の通りです。

<http://kankyo-iruma.net>

会員の声① 元気な子供をみんなで 守る小さな環境

三ツ木台公園は平成六年に完成し、金子小学校の南、俗称桂川（霞川）の隣に位置しています。私達の先人は茶畑で汗水流して働き、川も流量が豊富で水泳が出来魚も沢山いて子供は親の心配を顧みず元気良く遊びまた勉学に励んだと聞いています。私達数名は、毎日のように公園に遊びに来る、金子第1、第2保育所の園児、小学生及び障害児等が安心して遊べる場を綺麗にするとともに、夏にはカブトムシ等を捕獲出来るように樹木の落ち葉を集め、また、農村環境改善センター脇の間伐材を利用して花壇を作り季節の折には花を植えています。

この公園が憩い場として大いに地域の人に有効活用されることによって、子供達にはお金では買えない何か

を感じ取ってもらえることと信じています。

最近では車からゴミを投げ捨てたり、たばこのポイ捨てなど、目にあまるものがあります。みんなの知恵を集めて解決し、地域で実践して、お互いに理解できるより良い社会であって欲しいと思う一人です。

（三ツ木台 久保 正）

会員の声② もったいない！生ごみ は宝！

私事で恐縮ですが、我が家では「生ごみ」を「ゴミ」として出さなくなってから十二年経ちます。

EM（有用微生物群 Effective Microorganisms）を活用して生ごみを堆肥化し、家庭菜園に利用しています。きっかけは、家内がボランティア団体で知り、講習を受け、実践を始めたことです。

庭の「沈丁花」が花をつけず「切ってしまうのか？」と迷っていたときに堆肥化した生ごみを埋めたところ見事に開花したのです。休日に「生ごみ堆肥を庭に埋めて・・・」と頼まれ「先週埋めたところなの？」ネコの額ほどの庭。埋めたところを掘ってみると、野菜クズは勿論、魚の骨など土に分解して

いて、ミミズが大量に発生していたのに驚きました。そのとき微生物の偉大な働きを知りました。

市民農園を借り、その後近くに家庭菜園農場を借りて、生ごみ堆肥を主体にした自然農園の家庭菜園を趣味で楽しんでいきます。今では「生ごみ」は菜園の貴重な堆肥としての資源になっていきます。そして、近い将来、町全体での生ごみ堆肥化やバイオマス発電など「持続可能な自然循環型社会システム」を地域で実現できることを願っています。（東町 上山 巧）

環境展に参加して

六月三日（土） 四日（日）に、丸広百貨店入間店イベントホールにて、第十六回入間市環境展が開催されました。



クイズやアンケート、新聞ボックスの実習を通してごみ減量の大切さに関心を持って、税金の無駄遣いになっていくということを実感として捉えて、ごみ減量の為に実践している事を話して下さいたり、自宅ですべての手作りボックスを持ってきて

下さる方もいらして、市民の関心の深さを感じました。できましたら、これだけの環境グループが連携して、ひとつの流れの中でエコグッズの提示や地球に優しい暮らしをアピールできると素敵だと思いました。（篠塚玲子）

~~~~編集後記~~~~

今年度から鋤持、清水、石本が広報を担当します。宜しくお願いします。

都内から入間市に戻ると空気がひんやりとして美味しいと感じることがあります。入間市内でも緑の多い地区に行くとき気が和みます。そういう時は、日ごろ忘れていた自然のありがたさや大切さを感じます。

環境まちづくり会議は緑、水、大気などの部会の設置を検討しています。皆さんも入間市の環境について一緒に考えてみませんか。（石本 記）

入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課
住所：〒358-8511

入間市豊岡1丁目16番1号

TEL：04-2964-1111（内線1241,1243）

FAX：04-2965-0232

E-mail：ir210100@city.iruma.lg.jp

大豆油インキ「SOYINK」を使用しています
この広報誌は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。